



こんにちは、まちかど図書館ぼたんです！日頃より図書館をご利用いただいている皆様には心より感謝申し上げます。

近頃は少しずつ気温も高くなり始め、体がまだ暑さに慣れず、体調を崩しやすい季節ですので、どうぞお体に気を付けてお過ごしください。

今月のニュースレターは、4月の座談会の様子、図書館のある北石堂町の歴史、ゼミの北石堂町区の活動への参加などについてお届けいたします！

Topic 01 第17回イベントを開催しました！



2026年4月11日(土)に、第17回目となるイベントを行いました。今回のスピーカーは、防災士の山下勝也さんに「新生活と防災～今やるべきこと～」をテーマにお話をしてくださいました。山下さんは、二度目の登板です。

当日はオーナーで長野県立大学健康発達学部食健康学科長の杉山教授、一般参加の小林さん、岩本さん、塩沢さん、社会活動推進員として活動する岡澤さん、築山ゼミ生の小栗、小山、神田、そして築山教授の計10名での開催となりました。

【防災士について】

防災士は、地域や職場で防災リーダーとして活動し、平常時の防災啓発活動や災害発生時の初期対応、避難所の運営支援などを行う役割を担っています。

山下さんは、以前は自治体の防災訓練の旗振り役をしていましたが、現在は、防災士として災害に遭った時にいかに企業の事業を継続できるかという計画を担当しています。具体例として災害時における人材、生産設備、流通の維持の心配などがあります。そのために、現在、防災士は企業にとって必要な人材となっています。

【4月に防災を見直す必要性】

4月は新生活のスタートを切り、環境や住む場所が変わった方も多と思います。そして新しい生活が変わったということは災害のリスクも変化します。しかし、防災は忘れがちになってしまい、もう1度しっかり見直す必要があることから防災について幅広くお話ししていただきました。

【大きな建物だから安心？】

職場、学校など大きな建物で活動しているから安心というわけではなく、様々なリスクがあります。ビルの構造は、主に鉄筋コンクリートと鉄骨造に区別されます。鉄筋コンクリートには基本的に防火性能がありますが、鉄骨造は耐火工事をしていないと防火性能が劣ります。昨年11月に香港の高層マンションの大規模火災を思い出すと、大きな建物だから安心というわけにはいきません。そのため大きな建物であるほど、避難経路の確認と把握が大切になります。

またエレベーターに閉じ込められるリスクも考えられます。今年の2月には東京スカイツリーのエレベーター内で5時間半にわたって閉じ込められる事故が起こりました。

しかも、非常連絡ボタンが機能せず、外部との連絡にはスマホを使ったとのことでした。スマホが使えたのはスカイツリーが高品質の通信環境を整備しているからであり、一般のビルでは「圏外」になる場合も多いそうです。

【模様替え】

生活のパターンが変わったり、部屋の模様替えなどで家具を変えたり、配置を変えたりしたとき、家具の転倒防止を忘れてはなりません。

【通勤・通学の経路】

普段、通勤や通学で車を利用する人は多いと思いますが、歩いてみると普段は気づくことが出来ないことを発見できるかもしれません。例えば、ブロック塀・石垣・アンダーパスのある場所です。災害が起きたときの避難経路を確認するという意味でも、普段から歩いて確認することは大切です。

【これからの季節】

これから梅雨の時期がやってきます。そして、5月下旬から防災気象情報が大きく変わります。特に河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮の災害に5段階の警報レベルが付記され、名称が統一されます。そのため「レベル4・・・」と聞いたら避難する必要があります。



警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(注)
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(気象庁)

(参照) 内閣府 避難情報に関するガイドライン

【地名は土地の過去を表す】

先日、大阪の梅田で地下に埋没したパイプが10メートル以上持ち上がる事故がありました。さらに驚くべきことは、消防車がパイプの中に放水するとその重さで沈んでもとに戻ったことです。つまり、ここの地盤はズブズブに液状化していたと考えられます。なぜこんなにも軟弱な地盤が生じたのでしょうか。実は、この梅田という地名は埋田が由来になっているともいわれます。つまり、田圃を埋め立てて造った軟弱地盤地帯を暗示しているとも取れます。

【公助・共助・自助】

一人ひとりが自らの健康や安全を守ろうとすることは自助、自助を家族や地域住民などと補い合うことが共助、さらに自助と共助では対応しきれない場合に行政が生活保障や支援を行うことを公助と言います。昨今では、公助が縮減し、自助や共助が求められています。

【公助・熊本地震の思わぬ落とし穴は・・・】

10年前の4月14日に発生した熊本地震。政府は「プッシュ型支援・・・」などと言って物資を送り付け混乱に拍車をかけました。この原因としては①熊本県の防災拠点があった場所が震源地に近かった、②24時間後に再び大地震が発生したことが挙げられています。しかももう一つ「4月だったから」という理由も挙げられます。熊本地震では、市役所の人事異動直後という時期的要因もあり、担当者が変わったばかりで引き継ぎが十分でないなどの理由も考えられます。

【実際にお話を聞いて】

山下さんのお話の感想や、過去の災害の体験から感じたことを1人ずつ話していただきました。

- ・愛知に住んでいる時と長野に住んでいる時では地理的な状況や住環境が異なるため南海トラフなどの地震に備えて今一度生活の見直しや備蓄をしたい。また、現在は一人暮らしで隣に誰が住んでいるのかわからない状況のため顔見知りくらいにはなりたい。
- ・新生活が始まって一人暮らしになった時に近所の人や家族構成を知っておいて、いざという時のために助け合える関係性を作っておくことが大切だと感じた。また注意報などをしっかりと見て災害に備えることも大事なことだと思った。
- ・これまで防災について学んだことはあっても実際に教えてもらったことを行動に移せていないことに今回の講義を聞いて気づき教えていただいたことを実際に行動に移すまでが学びだと思った。今回山下さんに教えていただいたことを元に新生活のこの時期だからこそ再度防災について見つめ直したいと思った。
- ・3.11の時に地元の千葉県で実際に船が丘の上に上がっている姿を見て地震の怖さを改めて実感した。また2019年の台風19号の災害では長野市の知人の自宅に初めて泥出しのボランティアに向かった際に初めて災害後の状況を実感した。山下さんの今回のお話を聞いて川が熊の通り道になっていることやエレベーターの中はスマホが圏外になりやすいという話を知ることができてよかった。
- ・新潟に住んでいる時と長野に住んでいる時では災害の種類が違い、普段防災について聞く機会があまりないため今回山下さんのお話をお聞きしたことだけでも安心することができた。
- ・防犯や災害時に備えて地域に一人でも知り合いを増やしておくことが必要なことでそれが安心にも繋がるため、近所の人と挨拶から始め、話をするなど関係性を構築しておくことが大切である。
- ・結婚して家族が増えたタイミングでは自分だけではなくて家族のことも考えて防災について考えなくてはいけないと感じた。

【質疑応答】

災害に備えるために、今からできることに関して質問が多く出ました。

Q 1.

避難所生活では、何日分くらいを想定して、備蓄品などの準備をしておけばいいのか？

A.よく言われるのは3日分で、3日くらい経つとどんな大きな災害でも支援物資が届くようになります。また、準備してある食料などが今の自分の生活に即しているか確認することが大切です。

Q 2.

避難生活で長野の冬の寒さをしのぐにはどうすれば良いのか？

A.カセットコンロと水があれば、お湯を沸かすことができます。そして、ペットボトルにその湯を入れて、湯たんぽの代わりにするので暖を取ることができます。

Q 3.

共助の部分で現在はお隣さんとの挨拶も控えるという風潮もあるが防犯面と地域の人との関わりとのバランスの取り方はどうすれば良いか？

A.場所だけの近さだけではなく会社の同僚や友人、趣味などのコミュニティを通して心理的な距離で助け合える関係を構築しておくという方法もあります。



Q4.

持病がある場合にお薬手帳や周りの人に持病について理解しておいてもらうこと以外に準備しておくことはあるか？

A .かかりつけの病院や薬局など自分の病気について把握している場所をつくっておくことやプライベートな情報のためオープンになりすぎないように情報を管理しておくことが大切です。例えば、壊れにくい冷蔵庫の中に自分の情報が入ったカプセルを入れておくなどの方法があります。

Topic 02 北石堂町区の役員会、総会にゼミ生が参加しました！ 祇園際にも参加します！

4月16日（木）18：30～にゼミ生12名と築山教授で「まちかど図書館ぼたん」のある北石堂町の役員会に参加させて頂きました。場所は、北石堂町区公会堂で、とても綺麗な建物です。私たちのために資料や飲み物も用意していただき、参加を歓迎してくださいました。

北石堂町区には、次のような役員がおられます。区長、副区長（区長代理）、副区長4人（うち1人は会計）、総務。この7人が執行部の役割をされています。執行部は全員男性です。そして、第1部から第10部までの部長さん。部長さんの半数は女性です。役員会のメンバーはこの17人です。冒頭、民生・児童委員二人がおられましたが、役員会には参加されませんでした。資料によれば、その他に、会計監査二人、育成会長と副会長、環境美化推進委員長と副委員長、白バラ会二人、防犯部長、防災委員長と防災委員、公民館長、常任統計調査員三人、広報配布連絡員二人、体育推進委員、北石堂町商店街振興組合、二線路商店会も役員とありますが、役員会には参加されないようです。

会議では令和7年度事業報告や決算報告、令和7年ながの祇園祭北石堂町決算報告、令和8年度予算案、ながの祇園祭、北石堂町区規約について、話し合われました。

4月28日には、北石堂区総会が開催され、総会にも、学生及び築山教授が参加しました。さらに、5月18日に第二回役員会が開催され、学生及び築山教授が参加しました。今後は役員会だけではなく、民生委員が開催されている「ふれあい会食」や祇園祭の行事などにも参加していきたいと考えています。



Topic 03 某雑誌の取材を受けました！8月号に掲載していただけるそうです！

5月26日（火）に、東京にある出版社の某雑誌の取材を受けました。記者の方とカメラマンのお二人が来られました。私たちは、4年生6名と築山教授でお話をさせて頂きました。

この雑誌は、旅行・観光系の雑誌で、発売前なので、雑誌名をお伝えすることはできません。8月号に掲載予定ですので、7月には発行されると思われます。来年は、善光寺御開帳なので、この雑誌をご覧になった全国の皆さんが、まちかど図書館ぼたんにも足を運んでいただければと思っております。



ゼミで、「長野市誌第8巻旧市町村史編」を用いて、北石堂町の歴史について学びました。みなさんにもお伝えしたいと思います。

妻科村が南長野町に改称（1881年）

長野市は、明治三十（1897）年に誕生するが、その前身は、明治二十二（1889）年の町村制施行で合併成立した長野町である。そのなかに、北石堂町もあった。長野町は、善光寺の門前町として発展した。その領域は、旧藩時代には、長野村、箱清水村、茂菅村、腰村、妻科村、権堂村、問御所村、七瀬村の八村からなった。明治5（1872）年に、長野県に72の戸籍区が作られ、長野村など19カ村は、第39区となった。長野村は、明治7（1874）年、長野町と改称、同9年箱清水村を合併した。

明治11（1878）年3月、郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則という法律が公布された。長野県では、同11年12月、今までの10郡を16郡とすることが決まり、同12年1月に郡区役所が開かれた。各町村に戸長役場を設け、公選の戸長一人、筆生若干名を置くことが決められた。妻科村は本郷の他、北国街道沿いに、後町・新田・石堂の各支村があり、長野町の南に連なっていたから、同14年に南長野町と改称した。現在の大字南長野であり、北石堂町はここにある。ついで、連合戸長役場が置かれることになり、明治18年4月、長野町・鶴賀町・南長野町・西長野町・茂菅村連合戸長役場が設置された。明治21年、末広町は石堂から分離した。善光寺境内入り口からまっすくに南下する旧北国街道のほぼ延長上にJR長野駅があり、駅から境内入り口まで約1.75kmである。駅の標高は361m、境内入り口の方が31m高い。駅から権堂入り口までに約10m上がり、大門町が約375mで、大門町付近はかなりの坂になっている。弘化4（1847）年の善光寺地震で大門町の町民の3分の1が亡くなる被害を受けたのも、家々が傾斜面に立地していたことが理由である。

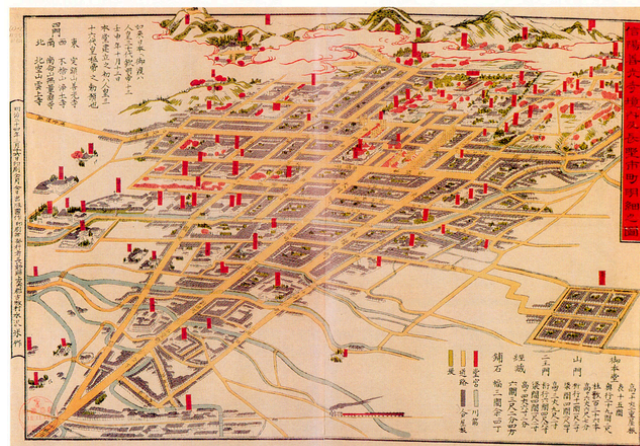
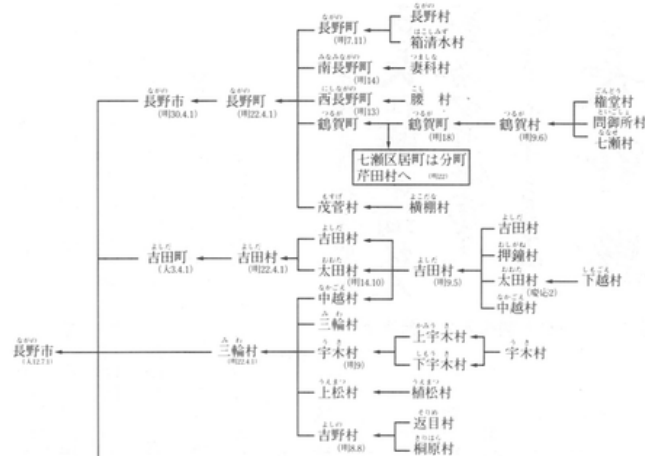
大正5（1916）年、石堂は長野市最大の人口

町別の人口をみると、長野市誕生の翌年（明治31年）、最大の人口は、西長野の2,241人、第二位は権堂の2,018人、石堂は、第三位の1,962人であった（第四位は、横沢の1,894人、第五位は桜枝町の1,858人）。それが、約20年後の大正5（1916）年には、石堂が3,538人と第一位、第二位は、西長野3,181人、第三位は千歳町2,527人、第四位は権堂2,364人、第五位は新田2,107人となった。

中世から昭和初期まで、大門町が長野市の中心街であった。「大門に店をもつ」のが、その頃までの長野商人の夢であった。かつては、「大門の旦那、後町の者共、石堂の奴等」（長野市誌7頁）と言われており、南に下がるほど場末であった。その後、徐々に町の中心は南となり、現在は、長野駅周辺、奴等と呼ばれていた石堂は、長野市の中心に位置している。

かるかや山西光寺に長野石油会社

水内郡伺去(しゃり)真光寺村（長野市浅川）で石油や天然ガスが出ることは、江戸時代中ごろにはすでに知られており、『信濃奇勝録(きしょうろ



く)』に「この村に土中より油湧き出る」と記録されていた。桑名川村（飯山市）の生まれで、少年のころ江戸に出て石坂宗哲の養子になり、尊王攘夷(そのうじょうい)運動に身を投じて活躍し、維新後は山岡鉄太郎（鉄舟）に身を寄せて、山岡鉄太郎厄介(やっかい)という肩書きを用いて、権力を背景に実業界に入って活動していた石坂周造が、「長野石油会社」と称して操業を明治6年ごろ開始し、長野石堂町刈萱堂(かるかやどう)で精製して実質的に発足した。しかし、ここは狭かったので、同八年に二〇〇メートルほど南の大通り西側に移転した。

近世の頃の北石堂町

西後町は妻科村の一部であったが、寛政九（1797）年に独立した。西後町、新田、石堂は北国街道、善光寺表参詣道沿いの集落で、石堂の一部まで門前町が続いていた。弘化四（1847）年の善光寺大地震の直前の町の様子を描いた絵が残っているが、石堂から北を見たところ、町並みは、かるかや堂辺りから始まり、その南は石堂たんぼと呼ばれる農地である。

大正6（1917）年、109年前、ロシア革命の年に北石堂町は誕生する！

大正5年には、鶴賀新地は東西に分かれ、千歳町は南北に分かれ、大門町は上と南に分かれ、西之門町は、上西之門町と西之門町に分かれ、西町は上と南に分かれていた。そして、大正6年から、吉川堰を境に、北石堂町と南石堂町となった。北石堂町は、大正6（1917）年に誕生したのである。

Topic 05 6月のイベントについて

6月のイベントは本棚オーナーで長野県立大学の杉山先生にお話ししていただく予定です。皆様のご参加をお待ちしています！

6月27日（土）13：00～15：00

スピーカー：長野県立大学健康発達学部食健康学科長 杉山英子教授

テーマ：未定

場所：まちかど図書館ぼたん

Topic 06 開館時間について

ホームページ



Instagram



開館時間は10時から18時までですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

URL:<https://machinakabotan.com/www.machinakabotan.com/>

Topic 07 アクセス



〒380-0826
長野市南長野北石堂町1185-6
JR長野駅から徒歩7分、
※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際はお近くのコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。



2026年5月31日発行

編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール

住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室

TEL：026-217-2241（代表） fax：026-235-0026

E-mail：tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp

主催：長野市中心市街地活性化協議会